

## 中国の核果類事情(モモ/ネクタリン)

[米国農務省GAINレポート 2025年7月7日](#)

これは米国農務省海外農業局の北京事務所(中国)が作成した「核果類年次報告書」の要旨及びモモ/ネクタリンの項(サクランボは生産需給統計表のみ)を訳したものであり、米国政府の公式見解及びデータとは異なる場合があります。

### 要旨

中国の2025/26年度のモモ/ネクタリンの生産量は、北西部の干ばつと北部の春の寒波により、前年比3%減の17万トンと予測される。サクランボの生産量は、栽培面積の拡大と栽培管理の改善により、6%増の90万トンと予想される。果実の消費量は、経済的な課題により依然として抑制されている。チリからのサクランボの輸入は、競争力のある価格と供給量の増加により堅調に推移すると予想される一方、米国からのサクランボの輸出は、中国政府による報復関税によりさらに減少するものと見られる。

### <モモ/ネクタリン>

#### 生産

当事務所は、2025/26販売年度(年度、1月～12月)の中国のモモ/ネクタリンの生産量を前年比3%減の1,700万トンと推定する。長引く干ばつにより山西省と陝西省の生産量が減少し、山東省では果樹の枯死さえも引き起こした4月の寒波により今年のモモの生産量がわずかに減少すると見込まれる。同様に、上海市及び江蘇省では人件費の上昇によって栽培面積が減少し、2025年の長江デルタ地域の総生産量は微減が見込まれる。一方、安徽省、湖北省、四川省等、中国南部のモモの生産量は横ばいと見込まれる。高品質な果実に対する消費者の需要により、モモ/ネクタリンの全般的な品質は昨年よりも向上している。

中国のモモ/ネクタリンの栽培面積は、過去数年間で全体的に減少した。山東省、河北省等の主要産地では、従来種のモモの生産者の一部が、より収益性の高い作物、特にサクランボにシフトしている。発展度の高い中国東部では、人件費の上昇により、モモの栽培面積が過去10年間で50%と大幅に減少した。高齢化が進む農業労働力も、モモの栽培面積の縮小の一因となっている。果樹生産者があまりに高齢なため強度の高い労働をこなすことができず、耕作地の放棄やトウモロコシ等の労働強度の低い作物への転換につながる場合もある。一方、雲南省のモモの生産は、市場の強い需要により急速に増加している。雲南省特有の多様な気候パターンのおかげで、同省のモモの熟期は早くは4月上旬から、遅くは11月下旬から12月にかけてであり、5月から10月までの従来の供給シーズンの端境期の不足を的確に埋めることができる。

消費者の嗜好の変化は、生産者が新しい品種を植えることを後押ししている。特に中国北部では収入向上のため、より熟期の早い品種を植えたり、温室を使用してネクタリンを生産する傾向が広く見られる。中国北部では、輸送と貯蔵の難しさから、従来の果肉の柔らかいモモから、より硬く、歯ごたえのある品種への顕著なシフトが進んでいる。中国東北部と東部の生産者は、黄肉のモモ/ネクタリンの栽培を増やしている。扁平ネクタリン、黄肉のモモ等の特産果実は、より高い市場収益を生み出すことができる。新たに登場した赤肉のネクタリンと白肉の扁平ネクタリンが話題になっている。品種の調整や温室等の新しい栽培技術の採用により、モモとネクタリンの供給シーズンは3月下旬から12月上旬までの期間に延長され、収穫の最盛期は7月から9月までとなっている。市場では、品種の充実が進んでいる。特産品種のシェアは拡大しているが、それらは通常、特別な注意とより多くの投資を必要とするため、モモとネクタリンの大部分は依然として従来品種である。

中国のモモ産業が直面する最大の課題は、依然として労働力の不足と高齢化である。機械化が限られているため、モモの栽培は袋掛け、収穫等の作業が労働集約的であり、農業を志す若者はほとんどいない。山東省のある生産者は、1日に3千個以上のモモの袋掛けを行うために長時間働いていると当事務所に語った。生産者の大部分は60代または70代である。人件費は高く、特に開発の進んだ中国東部で顕著である。例えば、2025年の山東省の人件費は時給20人民元(2.8ドル)に達した。人件費は、2020年には生産費の18%を占めていたが、2025年には25%を占めるだろうと言われている。さらに、山東省の果樹生産者らによると、害虫(ミバエ等)の問題と灌漑システムの不足が中国北部のモモの生産に影響を与えている。

#### 価格

従来種のモモ/ネクタリンの価格は、供給量の多さと品種面での不人気のために引き続き低迷している。今年は生産量の減少にもかかわらず、価格は前年と変わらないか、むしろ下落した。対照的に、扁平ネクタリン、黄肉のモモ等の特殊なモモ/ネクタリンの価格は大幅に高くなっている。当事務所が現地調査で観察したと

ころによれば、4月上旬に収穫された温室ネクタリンは、河北省と山東省の卸売市場で1kg当たり20人民元から30人民元超までの様々な価格を示していた。5月下旬に出荷される様々な産地の露地の早生モモは、同10～20人民元(1.4～2.8ドル)の価格が付けられていた。一般的に、モモ/ネクタリンの販売は、経済的な逆風に押されて動きが鈍い。果実生産者らは、卸売業者の中でも常に価格が低く品質要件に厳しい者にはモモやネクタリンを販売することを避けている。

高品質な果実と普通の果実の価格差は、今後ますます広がると見られる。高品質な特産品の果実は価格上昇が続くと予想されるが、供給過剰となっている一般的な果実の価格は下落する可能性がある。

## 消費

果実全般については現在の経済状況が消費に影響を与えており、消費者は価格に対してより敏感になっている。消費者は価値に見合った価格に注目しており、すなわち品質及び多様性と合わせて費用対効果を重視している。その結果、一部の高級果実の消費が低価格な果実の消費に置き換わった。大部分の果実は生鮮で消費されるが、カットフルーツ、フルーツティー、ドライフルーツの零食等の新たな製品形態に牽引されて、加工果実の消費量は増加している。

モモ及びネクタリンの消費量は減少している。しかし、消費者は新しいモモ/ネクタリンの品種を試してみることに熱心である。中国の消費者、特に中国南部の消費者は、甘くてジューシーで濃厚な香りのモモやネクタリンを好む。パリッとした果実を好む人もいるが、ほとんどの消費者は、酸っぱい果実や大きな果実よりもさわやかに甘い果実を好む。消費者は扁平ネクタリンや黄肉のネクタリン、黄肉のモモ等の特殊な品種を好み、その市場シェアは拡大している。

## 貿易

### 輸入

当事務所は、2025/26年度(1月～12月)の中国のモモ及びネクタリンの輸入が緩やかに増加すると予測しているが、これは主に中国への最大の供給国であるチリから輸入される季節外れのモモに対するハイエンド市場の需要によるものである。オーストラリアからのモモの輸入は、二国間貿易関係の改善後もまだ回復していない。国内生産と比較すると、モモ及びネクタリンの輸入量は依然としてかなり少ない。中国によるモモ及びネクタリンの輸入は主に1月から4月の期間に行われ、3月に最大量に達する。中国では国内産の供給が豊富にあるため、北半球の国々からのモモ及びネクタリンの輸入は、非常に限られている。

### 輸出

当事務所は、中国のモモ及びネクタリンの輸出は2025/26年度も引き続き増加すると予想する。中国の輸出業者らは、ロシア、東南アジア、中央アジア等の輸出先へのモモ及びネクタリンの出荷を積極的に推進している。業者らの報告によると、2024/25年度の山東省からロシアへの果肉の硬いモモの輸出は、前年比で30%増加した。

## マーケティング

中国は、モモ及びネクタリンの主要な生産国であり、活発な輸入国でもある。消費者の好みは産地によって異なり、無錫市(江蘇省)、襄陽市(湖北省)、平谷区(北京市)及び安徽省で産出される水蜜桃等のジューシーで甘い品種や、砀山県(安徽省)の歯ごたえのあるネクタリンが特に好まれる。黄肉や扁平なネクタリン等の特産品も人気を集めている。チリとオーストラリアから輸入されたモモ及びネクタリンは、価格設定やブランド戦略の影響を強く受け、ある程度の成功を収めている。一方、オンラインプラットフォームや地域のグループによる共同購入は、卸売市場での試食の提供や販促割引によって支えられることも多く、ますます重要な販売チャネルになりつつある。

表2 中国のモモ/ネクタリンの生産需給統計

モモ/ネクタリン(生鮮)	2023/2024		2024/2025		2025/2026	
販売年度の始まり	2023年1月		2024年1月		2025年1月	
中国	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
栽培面積(ヘクタール)	840,000	840,000	830,000	830,000	0	820,000
収穫面積(ヘクタール)	0	0	0	0	0	0
結果樹本数(千本)	0	0	0	0	0	0
未結果樹本数(千本)	0	0	0	0	0	0
合計果樹本数(千本)	0	0	0	0	0	0
商業的生産量(トン)	17,500,000	17,500,000	17,600,000	17,600,000	0	17,000,000
非商業的生産量(トン)	0	0	0	0	0	0
生産量合計(トン)	17,500,000	17,500,000	17,600,000	17,600,000	0	17,000,000
輸入量(トン)	42,500	42,500	54,000	54,000	0	61,000
総供給量(トン)	17,542,500	17,542,500	17,654,000	17,654,000	0	17,061,000
生鮮国内消費量(トン)	17,482,500	17,482,500	17,579,000	17,576,000	0	16,975,000
輸出量(トン)	60,000	60,000	75,000	78,000	0	86,000
市場からの隔離(トン)	0	0	0	0	0	0
総仕向量(トン)	17,542,500	17,542,500	17,654,000	17,654,000	0	17,061,000
加工用(トン)	0	0	0	0	0	0

<サクランボ>

表3 中国のサクランボの生産需給統計

サクランボ(甘果・酸果、生鮮)	2023/2024		2024/2025		2025/2026	
販売年度の始まり	2023年4月		2024年4月		2025年4月	
中国	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
栽培面積(ヘクタール)	193,000	185,000	199,000	199,000	0	205,000
収穫面積(ヘクタール)	0	0	0	0	0	0
結果樹本数(千本)	0	0	0	0	0	0
未結果樹本数(千本)	0	0	0	0	0	0
合計果樹本数(千本)	0	0	0	0	0	0
商業的生産量(トン)	800,000	760,000	850,000	850,000	0	900,000
非商業的生産量(トン)	0	0	0	0	0	0
生産量合計(トン)	800,000	760,000	850,000	850,000	0	900,000
輸入量(トン)	388,000	388,000	415,000	552,500	0	600,000
総供給量(トン)	1,188,000	1,148,000	1,265,000	1,402,500	0	1,500,000
生鮮国内消費量(トン)	1,187,970	1,147,970	1,264,800	1,401,300	0	1,498,000
輸出量(トン)	30	30	200	1,200	0	2,000
市場からの隔離(トン)	0	0	0	0	0	0
総仕向量(トン)	1,188,000	1,148,000	1,265,000	1,402,500	0	1,500,000
加工用(トン)	0	0	0	0	0	0